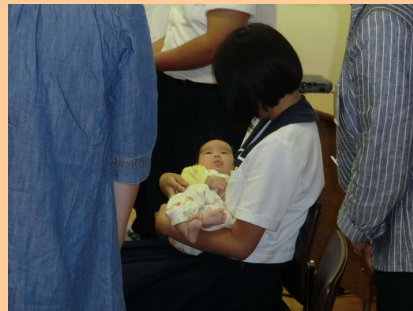


◇ 地域の幼児教育の指導者の方々に保育の授業をお願いしました ◇

「小さな命の輝き ～まもなくパパやママになる皆さんへ～」と題して、9月12日(月)本校会議室で2年生活科学科の生徒を対象に大館教育研究所所長補佐の山本多鶴子先生の授業が行われました。科目は「課題研究」の保育分野の内容です。大館市福祉課課長補佐で保育アドバイザーの石川恵美子先生と山本先生のご親戚の近藤さん親子も講師としておいでいただきました。

冒頭、石川先生による絵本「ライオンに育てられたウサギ」の読み聞かせが行われ、先生の澄んだやわらかい声と心にしみいる内容に、会場全体が静かな感動の渦になりました。



山本先生の授業では、乳児期の大人の対応の大切さや心構えが様々な事例を交えてわかりやすく生徒に伝えられ、乳児の発達と成長の説明があったところで、2ヶ月児の赤ちゃんを連れて近藤さんが現れました。本物の赤ちゃんの登場に生徒たちは感激し、実際に多くの生徒が赤ちゃんを抱っこさせてもらいました。90分という時間の中で生徒は多くの事を学び、心に刻んだことが次の感想によりわかります。

地域の教育力の活用を、難しい手続きなしで実行できないかという教頭先生の計らいにより、早速実現した授業です。本校の依頼を快く引き受けてくださった山本先生に感謝申し上げます。



<生徒の感想>

・自分が赤ちゃんを育てることになった場合を考えながら話を聞いていました。「自分がパパになったらこうしよう!!」とか「絶対にスキンシップは欠かせたくない」などいろいろ将来の設計図が出来上がってきたと思いました。

・今、自分が元気に学校へ登校できるのも、授業を受けることができるのも、家に帰ってご飯を食べることができるのも、親がしっかりと私を支えてくれるおかげなのだ改めて感じる事ができてよかったです。そして嬉しかったです。そして、子供からこう思われるような親になりたいとも思いました。

・人は三歳までに「情動」が完成するということを知れて良かったです。立派なお父さんになれるように頑張ります。

・赤ちゃんは、お母さんのことが見えなくても目で追っていました。それは、毎日暖かいお世話をしているからだと思いました。今回の講話を通して改めて生命とはすばらしいものなんだということが実感できたので、良かったです。

・最後に本物の赤ちゃんを抱く機会があって、抱かせていただきました。とてもあたたかく、かすかな重みもあって、『赤ちゃんだ!!』と思うとなんだか微笑ましくなって自然と頬が緩んでいました。赤ちゃんはまわりの人に幸せを運ぶ天使だと思います。

・将来自分に子供ができて母親になる時は、今回学んだことを活かして、大切に育てていきたいと思いました。